

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2023.05.No309

5月号

目次

全国青年委員長会議に出席して	1
特集	2
・令和4年度北海道赤レンガ建築賞	
・令和4年度北海道赤レンガ建築奨励賞	
女性の窓	6
[No.109 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

全国青年委員長会議に出席して

青年委員会 佐々木 強 志 (北見支部)



2023年3月4日、5日の2日間、全国青年委員長会議が開催されました。これは、公益財団法人日本建築士会連合会の青年委員会の主催によるもので、コロナ禍になってからオンライン開催やハイブリット開催を重ねてきましたが、久しぶりに完全対面方式での開催となりました。北海道からは、本部青年委員会から委員長の私と副委員長、そして連合会に出向している委員の合計3名が出席しました。会場となったのは、昨年と同様に東京ビッグサイトの会議室で全国47都道府県の青年委員長が一同に会して4日午後から5日午前中まで丸一日研修が行われ、非常に有意義なものでした。



会場：東京ビッグサイト (出典HP)

今年の青年委員長会議のテーマは、「強い組織を作る!!」でした。研修内容は、「真のリーダーを目指せ!～新たな時代に立ち向かうリーダーシップ研修～」と題して行われ、委員長としてのリーダー力を高め、単会でチームビルディングを行い、そのスキルを社会に還元していこうというもので、講師に人材教育コンサルティング会社であるアチーブメント株式会社の高木謙治氏を招いてワークショップ形式で行われました。



連合会青年委員長挨拶

研修の詳しい内容や資料については、著作権と知的財産権の関係上、お知らせすることが出来ませんが、大まかな内容は、松下幸之助が掲げた「理念経営」を基にして、より良い組織作りを行うために必要な仕組みや考え方などを学びました。また、ワー

クショップ形式で行われたため、私のテーブルは、群馬・三重・大阪・広島・熊本の青年委員長と一緒に、各県の建築士会の現状や課題、悩みなどをじっくりと情報共有しながら、研修を進めることができたことも、大きな成果だったと思います。

また、初日の夜には意見交換会が行われ、全国の青年委員長と意見交換し、懇親を深めました。次の日に聞いたところ、1時間半しか寝ていないという方もいましたが、その日の研修もしっかりと受けていました。



意見交換会

2日目の研修では、初日の内容から更に踏み込んで、人間関係を構築する上で必要な知識や考え方、またそれを各建築士会に持ち帰ってどう活用していくかなど、テーブル毎に話し合いながら研修を行い、無事に2日間の研修を終えることができました。この研修の雑談の中で講師が言っていた言葉で「お酒の飲み会に行くことが悪いことではないが、それは浪費ではなく投資でなければならない」と言っていました。聞いていて耳が痛くなる部分もありましたが、その通りだと思いい印象に残りました。

最後に、貴重な体験となったこの会議を主催して頂いた連合会青年委員会に感謝し、会議出席の報告とします。



会議出席者の集合写真



2日目終了後、飛行機前に月島もんじゃストリートで

令和4年度 北海道赤レンガ建築賞

浦河フレンド森のようちえん



□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

「浦河フレンド森のようちえん」は、老朽化した園舎の建て替えに際し、法人理念の体現と地域の魅力付けへの寄与を願い、移転・新築した園舎です。「自然の中、人々の間で、共に支え、共に育て、共に育つ」という法人理念において、隣接する豊かな森と一体となり、子どもたちの自由な発想を育みながら、地域の方々と豊かな自然での“共育”を実現し、それによって園舎が多様な人々の集う拠点となるよう企画しました。園舎、森、周辺環境を一体的に捉え活動することが、地域のつながりを強め、魅力を引き出すことにつながります。共に支え合う中で地域の発展に貢献することを目指しています。

□設計の特徴

敷地には町はずれの雑木林が広がる小高い山裾のなだらかな傾斜地が選ばれました。設計にあたっては、子ども自身で自由な使い方を創造し、自分の居場所や世界を発想しながら、自らの感性や理性を発見・形成していく環境となることを目指しました。保育室と遊戯室が一体の大空間を、身体に親しみやすい断面寸法（柱：120角、梁：120×180）で構成される道産カラマツ材の、一辺が3.3mの正四角錐を1ユニットとした立体トラスで柔らかに全体を覆い、ゆるやかに空間を分節しています。この架構は床から立ち上がり、機能上必要な空間を確保しつつ、斜め柱の柱脚部のような一見実用的ではない空間も内包し、この架構そのものが子供たちの発想の手がかりとなることを意図しています。室内のどこにいても屋内外の環境をシェアしている感覚が持てるように配置した開口部からの光と風は、単一のユニットから成る立体トラスの中に均質ではない空間を生み、連続する一体空間に多様性を与え、子どもたちがその時の気持ちやしたい行動に合わせた居場所を自らで選択できるようになっています。この大空間の温熱環境は、高断熱と地盤の大きな熱容量を利用した温冷放射によってベース温度が保たれます。この新園舎が、子どもたちだけでなく、この園の活動を支えてくださる多くの方々にとっても心地よい場所となることを願っています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

木造立体トラス構造という非常にユニークかつ繊細な構造で、9ヶ月とタイトな工期の当工事では、木軸建方工事の際の施工精度に何より気を使いました。CAD/CAM3Dプレカット加工機による仕口金物の露出を極力抑えた木トラス材の仕口の加工、工場製作による屋根のパネル化など道内の木材加工製作技術を結集し、精度確保と工期短縮に努めました。また、垂直な壁がほとんど無く斜材で構成された大空間の内部足場計画では、足場の建地位置を工夫し、機能性や作業性を確保した上で安全も確保することに尽力しました。

□完成後の地域への貢献度等

新園舎では、以前から行っていた子育て支援や学童保育、一時預かり保育等の各種事業の環境が充実し、0歳児保育や病児保育、自園調理の地産地消・手作りにこだわった給食の提供等と共に、「保育園留学」を開始しました。保育園留学は、主に都市部に住む子育て世帯が数週間地方に滞在し、保護者がリモートワークしている間、子どもがその土地の保育施設に通うという取り組みで、既に4組の家族が利用しています。子育て世帯の将来の移住交流の可能性もあり、地域の活性化に大きく貢献できる取り組みです。子どもの多様な創造性を育む園舎と、それを包み込む豊かな自然環境に加え、こうした取り組みや地域の方々との共育により、浦河町の魅力が地域に住む方々に再認識され、地域外に住む方々には新たに認識されるきっかけとなり始めており、人々の交流の広がりという生き生きとした風景を奏で出しています。

■**建築主** 学校法人フレンド恵学園
 ■**設計者** (株)照井康穂建築設計事務所
 ■**施工者** 岩田地崎建設(株)

■**建築物の概要** 所在地 浦河郡浦河町東町かしわ4丁目339番地2
 主要用途 幼保連携型認定こども園
 構造及び階数 木造 平屋建て
 建築面積 1,331.27㎡
 延べ面積 998.26㎡
 竣工年月日 令和4年2月28日



□受賞のことは

建築主 学校法人フレンド恵学園 **理事長** 伊原 鎮

「地域社会への貢献」という視点で選考される「北海道赤レンガ建築賞」を受賞できたことは、【^{きょういく}共有】を理想とする我々にとって誠に光栄なことであり、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。私たちは、地域への貢献と「皆が子育てに参加する社会」の実現に向けて活動していますが、今回の受賞はその想いや実践を評価して頂いた結果であると同時に、今後の活動に期待して頂いた結果でもあると考えています。そのご期待に応えられるよう、子ども達を中心とした地域貢献において、職員一同さらに精進していく所存です。

また、本園舎の設計を担当された照井康穂建築設計事務所、施工を担当された岩田地崎建設の皆様と共に、この名誉と歴史ある賞を受賞させていただくことは、今回のプロジェクトに携わった方々の熱意や創意工夫、苦勞を間近で見てきた我々にとって大きな喜びです。我々の、子ども達や地域への想いを見事に形にいただいた皆様に感謝申し上げます。

設計者 株式会社照井康穂建築設計事務所 **代表取締役** 照井 康穂

この度は、建築主、設計者、施工者の3者を表彰していただける、歴史と名誉ある「北海道赤レンガ建築賞」を賜り、誠に光栄に存じますと共に、ご尽力いただきました多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

このプロジェクトでは、「共有」という理想の実現に向け、想像力を育む保育・教育環境の建築としてのあり方を模索しました。開園後初めて園を訪れて目にした光景は、この建物をとても自然に自由な発想で使いこなしている園児たちの姿と、新しい環境に悪戦苦闘されている先生方の姿でした。その後訪れる度に、初めは戸惑われていた先生方が自ら考え、使いこなし、自信をつけてゆく様子を目にし、そのパワーに圧倒されました。子ども達や先生方の生き生きとした姿が、この園を支えてくださる周りの方々の共感を生みはじめていると感じています。子ども達をとりまく環境を皆で大切に考えたこのプロジェクトが、ご評価いただいたことを大変嬉しく思っています。

これからも親しまれる建築を目指し、建築を通して社会に貢献して参る所存です。

施工者 岩田地崎建設株式会社 **取締役副社長執行役員（北海道本店長）** 岩田 幸治、**作業所長** 永坂 充

このたびは北海道赤レンガ建築賞にご選定頂きまして、ありがとうございます。このような歴史のある賞に選ばれた事、また、地域の発展に寄与する建物の建設に携わらせて頂いた事を誇りに感じるとともに、関係者の皆様、工事の依頼を頂いた建築主様、施工に対してご指導頂いた設計事務所様へ心より感謝申し上げます。

当プロジェクトは「自然体験活動を中心とした幼児教育を行い、地域の次の世代を担う子供たちを育てる」という建築主の熱い想いを、設計者が受け止め、魅力的で周辺の環境と調和する木造のようちえんを設計し、私たちが皆様の協力を得て形にすることができた建設工事です。このような思いの詰まった工事に携わることができたことは、施工者として大変幸せなことです。

当社は北海道に根差した企業として、これからも、地域の発展へ尽力されている方々のために、建設工事を通して安心で豊かな社会環境づくりに貢献していく所存です。

令和4年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

ザ ロイヤルパーク キャンバス 札幌大通公園

■建築主 三菱地所(株)

■設計者 (株)三菱地所設計

■施工者 清水建設(株)北海道支店

■建築物の概要 所在地 札幌市中央区大通西1-12

主要用途 ホテル 飲食店舗

構造及び階数 RC造(一部床:CLT造) 木造 地上11階 地下1階 塔屋1階

建築面積 580.62㎡

延べ面積 6,157.06㎡

竣工年月日 令和3年8月31日



□企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

本計画では、①主伐期を迎えた北海道の森林を循環させるための道産木材の建材利用、②工事途中に出る廃材やCO2発生量を極力減らすなどの環境配慮、③地元材の利用・地元業者との連携による地域産業の活性化、④単なる宿泊の場を超えて、地域に開かれた場、文化を発信する場を作り出すことによる地域社会への貢献、を実現するため、「北海道を体感する」をコンセプトに建物からホテル運営まで、北海道産の建材や食材などの活用にこだわった「究極の地産地消」を目指す国内初の「高層ハイブリッド木造ホテル」を計画した。

□設計の特徴

建物は地下1階から地上8階までが鉄筋コンクリート造(8階床の一部にCLTを採用)、9階から塔屋階の上部4層を純木造(床:CLT、壁:高耐力壁/拡張型SSW14工法*)とした、立面ハイブリッド構造となっている。また、内外装の木質化として、鉄筋コンクリート階客室の内装に、鉄筋コンクリート型枠を内装仕上げとして活用し型枠廃材の軽減ができる配筋付き製材型枠を開発・採用した。外装には高温熱処理木材による木ルーバーや外壁用炭化コルクを利用することで、経年変化とともに色が変化していく外観をデザインしている。建物全体として1200㎡を超える木材を使用し、その8割以上がトドマツ、カラマツ、タモを中心とした北海道産木材である。木造化による工事中のCO2削減量は、すべてを鉄筋コンクリート造とした場合と比較して約1,385tにのぼる。また、外装ルーバーやCLT材の製作時に発生する端材を内装に使用するなどの取り組みを行い、サステナブルな建物を目指した。

□施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

初めて施工するRC造+木造の組み合わせのその接合部にはアンカーボルトとタイダウン金物が合わせて1500本程のコンクリート内打込みが必要で、鉄筋との干渉チェックにはBIMを活用した。また、精度管理にも時間をかけて検討し、間違いの無いものとした。外壁に取り付く木製ルーバーもRC造、木造で層間変位量が大きく違う為、可動域のメカニズムを確立するのに綿密な検討を行った。

□完成後の地域への貢献度等

究極の地産地消を実現するため、道産材利用だけでなく、様々なものを道内で製作することに拘った。その取り組みは地域産業の活性化に加えて、先端技術を地元企業へ伝達し、地域で新しいものを生み出せる力を育む良い機会となった。また多くの場所から人が訪れるホテルであるからこそ、地元アーティストやメーカーの活躍の場を設けることでより効果的に地元文化の発信ができる、地域活性化の一助となった。現在ホテルでは2階ラウンジやルーフトップを一般の方に開放し、定期的なイベントも開催、ホテルを中心とした輪は広がりを見せ、学生の方々が見学に訪れたり、近隣の方々から木に関わる新しい取り組みに関する相談を頂くなど、ホテルが地域コミュニティーのハブとなっている。

令和4年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

芽室町役場庁舎

■建築主	芽室町	■建築物	所在地	河西郡芽室町東2条2丁目14番地
■設計者	アトリエブंक・創造設計舎設計共同企業体 (有)金箱構造設計事務所	の概要	主要用途	事務所(役場庁舎)
■施工者	(建築主体) 宮坂・北土・鍵谷建築主体工事特定建設共同企業体 (電気設備) 関電工・相互・道産商事電気設備工事特定建設共同企業体 (機械設備) 池田・石崎機械設備工事特定建設共同企業体		構造及び階数	S造一部RC造 地下1階地上3階建
			建築面積	1,710.81㎡
			延べ面積	5,558.74㎡
			竣工年月日	令和3年12月3日



□企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

芽室町では、旧来から役場庁舎及び東側周辺を文教・行政ゾーンと位置づけ公共施設をまとめて配置し、商店が多く立地する西側周辺は市街地再開発事業等を行い、歩いてまわることの出来る範囲にコンパクトで利便性の高いまちづくりを行ってきました。役場庁舎の建て替えに当たり、敷地が公共施設群と商店街の結節点にある立地を生かし、「歩いてまわれるまちづくり」の核となる、地域に開かれた庁舎を目指しました。基本設計ではワークショップを重ねて町民参加を図り、新しい町民の居場所となる庁舎を模索しました。実施設計では施工者の視点を導入するため、EC(アーリー・コントラクター・インボルブメント)方式を採用し、発注者、設計者、施工者の協力体制のもと進めました。

□設計の特徴

限られた敷地に正方形プランを重ねた表裏のないデザインとし、3階をセットバックさせて周囲の住宅スケールに馴染む計画としました。四周に張り出した2階の深い軒下空間が雨や雪を防ぎ、まちと庁舎の緩衝空間となって内外をつなぎます。ガラスで囲われた1階は、街路と直結する3か所の出入口から自由にアクセスすることができます。1階全体が町民を受け入れる、ピロティを内部化したような空間となることを意識しました。正方形プランの中央に執務室を配置し、その周囲を回遊できる動線計画です。執務室は課長席を設けないユニバーサルレイアウトを採用することで、無駄なスペースを省き効率化を図りました。外周部が自然光や温度を吸収し、執務室は安定した温熱環境とムラのない光環境を得られます。構造は、広い執務空間を要する役場機能を考慮し、鉄骨ラーメン構造の1階に制震ダンパーを設ける制震構造を採用しました。高い耐震性能を確保すると共に、将来の組織改変にも対応できるフレキシブルな庁舎を目指しました。

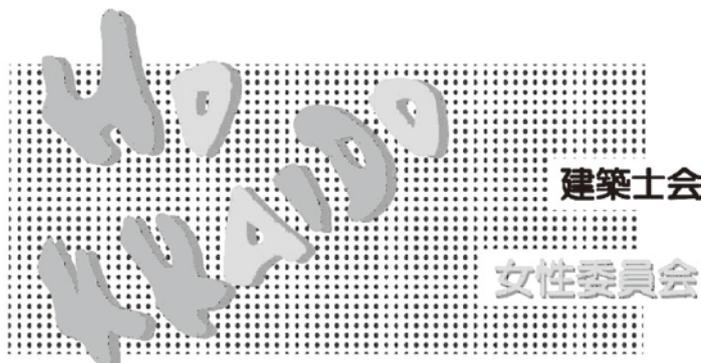
□施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

1階四隅に設置する制震ダンパーの精度確保のため、製品検査や各工程での品質管理、施工に十分配慮しました。鉄骨工事は施工図作成から工場制作、現場搬入施工といった夫々の過程における品質管理や工程管理を徹底し工事を進めました。トリプルガラスの製作サッシ、外装材(板金)、議場のルーバー、カウンター家具などはモックアップを作成し、細かい納まりなども三者で確認しながら進めました。毎週定例を行い、施主、設計者と綿密な打ち合わせを行い施工に反映させました。

□完成後の地域への貢献度等

全体が見渡せる空間は訪れる町民にとってわかりやすく、中央にコンパクトにまとまった執務室が業務の円滑化につながり、住民サービスの向上に寄与しています。新しい庁舎は町民利用のために開放しており、1階の町民ホールはバス待合や情報交流の場、3階議員控えコーナーはリモートワーク、学生の勉強の場や憩いの場として活用されています。また、災害対策室など防災拠点機能が整備され、町の防災体制の強化に貢献しています。

No. 109



『終の住まい』

岩崎 美乃 (函館支部)

60代になって、30代の子育ての時に建てた自宅がだんだん自分に合わないと感じるようになりました。

どんな家に住みたいのか、計画を立てるために思考の整理をしました。

3つのポイントがあります。

お金の変化→年金生活
 身体の変化→健康寿命
 →身体介護

現役世代から年金生活にシフトすると、入ってくるお金が変化します。私の家庭では10万円くらい少なくなる感じです。

日々の生活を調整するか、または仕事を続けるなど、何を優先させるのかを決めていきます。

65才からやりたかったこと、行きたかったところ、欲しかったものなど…。

時間が使えるときに思ったようにお金が使えないのは、ちょっと辛いですね。

ただ、やりたいことをやれる時間にも限りがあって、80才の壁に近づくと一人で旅行に行くことや、その準備が難しくなり使い道が減ってくることになります。

それを踏まえて終の住まいをどう考えるかが大切になります。

戸建ては雪かきの問題がありますので、選択肢として集合住宅もあると思います。

私の選択肢では、子育て用の住宅から移ることです。

シニアの雪かきでの死亡事故は心が痛みます。

但し集合住宅の場合は、年齢を重ねるにつれ足腰が弱るので、停電になっても自分の足で買い物などに行くことが出来る低層階が望ましいです。

間取りはやりたいことがスムーズにでき、収納や水回りがゆったりしている家事がしやすい家が理想です。

また身体介護が必要になると生活が変わります。家事や着替えなどの身支度はまだ良いのですが、トイレの介助が必要になると介護の人の負担が増えます。

フルサポートが必要になると施設に入居するのが良いと思いましたが、仲間と暮らすグループホームのような住み方もあることを思い出しました。

地域でシニア自身も集う、話す、役割を持つ、居場所を作る、住むことが小さな村のように、年代に関わりなく助け合って生きることにつながるのではないかと思います。



『マンションのリノベーション』

児玉 恵美 (札幌支部)

昨年、築37年の丁寧に手入れされた中庭を持つ理想のマンションと出会いました。それまで数年間探して見つけた、外壁のレンガタイルとガラスの階段室が調和しているヴィンテージマンション…私達はこの建物の持つ素材の魅力を暮らしに取り込むイメージを持ってリノベーションをする事にしました。設備工事や大工工事は専門の職人さんに分離発注して、解体や床の下地施工・仕上げ工事等出来る事は自分達で挑戦しました。

建築の持つ魅力を生かす為に『素材』が大切な要素になり、コンクリート・無垢の木・タイル等それぞれの持つ良さを引き出す事を優先していきました。4LDKをほぼスケルトンに解体、RC壁式構造の室内を貫く壁約4mと梁約7mを表しにして、そこから空間構成は構造壁の《RCの骨格》の強さと対比する様に、水廻りのコアの壁には木板を貼り《木の箱》をつくる事で、緩やかに区切りました。

そしてもう一つ、今の暮らしを快適にする為に『暖かい家』を目指しました。秋、外壁に面する内装にt39.5mmの断熱ボード0.022w/(m/k)を大工さんが貼っていくに従って、格段に室温が上がった事に驚き、暖房計画をストーブ2台から1台に変更しています。一冬過ごして、『断熱が一番安い暖房器具』という森美和さんの言葉を実感しました。

『素材』と『暖かい家』…何ともシンプル… 築37年の建築の中での住まい 大切な物を残してそぎ落としていくと、自然とそこに導かれた感じです。後は、日常生活の物をどれだけシンプルにしていけるか！ これからの最大のテーマになりそうです。

旭川支部

総合庁舎建替工事

青年委員会委員長
本間 達也



新庁舎の建設は令和2年4月に着工し、現在までの延べ労働時間は520,000時間経過しており、令和5年8月の竣工、そして11月の開庁に向けて現在まで工事は順調に進行しています。

建設地は旭川市7条通9丁目に位置し、南側に現庁舎、北側に旭川市民文化会館、東西には永隆橋通と緑橋通に面した場所で工事を行っています。工事も約3年が経過し、経過を順に辿っていくと令和2年は主に杭地業や基礎コンクリート工事を行い、杭打機・掘削機・クレーン・ポンプ車が連日入れ替わりで作業をしていまし



▲建設中の新庁舎(令和5年3月撮影)

た。令和3年からは建物中央にタワークレーンを設置し、鉄骨工事を行いました。地上9階建を5節に、平面では4ブロックに分割して2フロアずつ鉄骨建方を行い、並行してデッキプレートの敷込、スラブコンクリート打設を行ってきました。現在では解体されていますが、タワークレーンがある間は現場の視察会や見学会の際に、多くの見学者が現場を訪れ、タワークレーンを間近で見て大変興味を示していました。

令和4年には外壁のPCaコンクリート板の施工、屋上防水工事を行い、並行して低層階から内装工事も行ってきました。

令和5年の今年最後の年となり、内装・表装・建具等の仕上げの工事が大詰めとなってきており作業員も毎日170名程入っております。

私も現場に従事させて頂いており、旭川市新庁舎完成まで無事故無災害達成を目標に引続き最後まで頑張ります。



▲施工中の議場(令和5年3月撮影)

名寄支部

Beyondコロナに向かって

支部長
川崎 俊彦



皆様こんにちは、名寄地方も雪解けが進み建設工事入札が日増しに増えてきている状況であります。当支部地域の近況としては、昨年より王子板紙名寄工場閉鎖に伴い現在建物解体工事が今年度9月頃解体完了になり名寄市も跡地利用を踏まえた企業誘致等に名寄市条例変更等を行い対応に追われている状況です。

跡地利用を農産物、畜産物の輸送中継基地に特化して行く方向性が強いようです。

名寄市の南側玄関口に広大な空き地が現れる状況に地元市民も懸念しています。

名寄支部はビヨンドコロナに向かっての活動をどのように行っていったら良いか模索の中で会員数

の減による将来の支部存続問題を切り開くべく名寄建設業協会と連携協力し合い将来の担い手確保を名目に、毎年9月第4日曜日に名寄産業まつりが開催される名寄健康の森会場にてエヌズ・クラフト職業体験プログラムに『**まちを守る・キミのチカラが必要だ**』を題して会場ブースを併設して、小中の児童、生徒を対象に木造建築組立体験・削りの匠(かなな掛け体験)・塗りの匠(珪藻土壁塗り左官体験)・操縦の匠(パワーショベル操縦体験)などの実体験を行い(令和4年度実績参加30名)ものづくりの楽しさと建築の繊細で緻密さを体験してもらい小中学生の将来への進む糧に少しでもなってほしいと言う思いの基に開催して行きたいと思っています。

その他支部活動として、毎年開催の建築士の日の行事が3年ぶりに会員相互の親睦を計るジンギス

カンパーティーの開催、本部・ブロック開催行事・全道大会への積極的な青年層の参加を通じて北海道建築士会の活動内容の理解と各地域にいる建築士仲間との交流に於ける人脈形成と技術の向上、意見交換会の楽しさを当支部青年建築士に有意義な場として参加頂きたいと思っています。

今後の課題として建築に携わる人の確保と現在関わっている人の建築士合格が年々狭き門のような状況の中で名寄支部でも建築施工管理技士会員からの受験、合格に至るまでの支援策を取り組んで行かなければならないと思っています。

従って今年度は上記の課題を支部会員相互での協議を充実させて時間と労力が掛かるとは思いますが少しずつでも前進させることが必要と肝に銘じ今年度を乗り越えて行きたいと思っています。

道士会の動き

道本部の主な会議報告（4月）

- ◆第2回青年委員会
（開催日）15日（土）
 - 1）全道青年委員会連絡会議の振り返り
 - 2）青年建築士の集い（北見）
 - 3）建築士の日イベント
 - 4）全道大会青年サミット
 - 5）全道大会C分科会
 - 6）今後のブロック協議会の開催
 - 7）その他
- ◆第2回女性委員会小委員会（web）
（開催日）18日（火）
 - 1）『全道大会 A分科会』
 - 2）SNS運用について
- ◆第1回情報委員会
（開催日）22日（土）
 - 1）会誌「北海道建築士」
 - ・8月以降の掲載記事を策定
 - 2）全道大会（北空知大会）号外
 - 3）SNS運営方針
 - 4）その他
- ◆第2回総務・企画委員会
（開催日）27日（木）
 - 1）令和5年第2回理事会
 - 2）その他

本部の主な行事予定（5月）

- ◆まちづくり会議（開催日）13日（土）
- ◆第2回理事会（開催日）18日（木）
- ◆青年建築士の集い（開催日）20日（土）
- ◆第1回事業委員会（開催日）27日（土）

関係機関等会議参加予定（5月）

- 16日（火） 建築CPD運営会議（東京）
 17日（水） J I A 通常総会意見交換会
 上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内（5月）

監理技術者講習

10日（水） 札幌市

建築士定期講習

24日（水） 旭川市
 25日（木） 札幌市

編集後記

5月から新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられます。今年のゴールデンウィークの旅行先のトレンドは、「大都市回帰」だそうです。自分もしばらく大都市に行っていないので、時期を見計らって旅行に行きたいと思っています。

建築士会の活動も「回帰」すべきことと、そうではないことがあると思いますが、全国や全道大会などは、やはり参加しないと良さはわかりません。活動が活発になることを願っています。
 情報委員会 角張 隆昌（旭川支部）

CPD認定プログラム（4月認定）

- ◆2023年北海道建築士まちづくり会議
 《日程及び会場》5月13日（土） 15：00～17：30
 ヤクルトビル（札幌市）
 《単位数》 2単位
 《上記問合せ先》（一社）北海道建築士会
 TEL 011-251-6076
- ◆2023法令クエスト～札幌の都市計画事業～
 《日程及び会場》5月12日（金） 19：00～20：30
 かでる2.7（札幌市）
 《単位数》 2単位
 《上記問合せ先》（一社）北海道建築士会札幌支部
 TEL 011-232-1843

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！

- 
- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
 - 5月パスワード：Kit031

お知らせ

令和6年特別活動費助成金申請受付はじまる

全道の統一事業のほかに支部等の事業に対して、人材・資金・情報などの支援を行うための「特別活動費」助成金を活用ください。

- 支部等が建築士会のPRや会員等の資質の向上のための新たな事業又は、地域住民との協働により活力あるまちづくりの一助を担う新たな事業等が対象となります。
- 対象事業：令和6年事業
- 申請期間：令和5年5月1日から7月31日

詳細は、所属支部または北海道建築士会本部（011-251-6076）までお問い合わせください。

情報委員会委員長／森 勝利
 副委員長／前田 繁・立花智亜喜
 委員／今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌
 村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.309号

印刷 令和5年4月／発行 令和5年5月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番